

「特別支援教育フェイスシート」の作成手順

「特別支援教育フェイスシート」は、「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」で共有して活用するもので、2つの計画を作成する際、対象となる児童生徒等の一人一人のニーズの内容等の情報を整理してまとめます。

1 家族構成等

家族構成の他、家庭環境についてもまとめます。

2 本年度までの様子

生育歴や相談歴等、現在に至るまでの様子を中心にまとめていきます。

3 診断等

発達障害等の明確な診断がない場合でも専門医の受診歴や、健康面で参考になる情報をまとめます。

4 検査結果等

専門機関による諸検査（WISC-Ⅲ、他）や実態調査、標準学力検査の結果等をまとめます。

5 現在の児童生徒等の様子

気になる様子だけでなく、プラス志向で児童生徒等を見つめ、まとめていきます。

○興味・関心

学校だけでなく家庭での様子も含めてまとめます。

○放課後等

下校後や休日における関係機関があれば記入します。

○学習面、行動面・運動面、対人関係・健康面

「できているところ」、「気になるところ」、「取り組んでいること」について、それぞれ特に重要な情報をまとめます。担任だけではなく、必要に応じて同学年や専科等の複数の教師による視点でまとめます。

○学級等の様子

学校・学級の在籍数、学級集団の様子をはじめ、他の気になる児童生徒等がいれば、その様子もまとめます。

○その他

地域の情報等を必要に応じてまとめます。

6 将来に向けて

児童生徒等、保護者、担任のそれぞれの思いをまとめます。

7 保護者の同意

このシートを「個別の教育支援計画」と併せて作成する場合は、保護者と一緒にまとめていきます。その際、支援関係者に開示することについては、承諾を得る必要があります。

特別支援教育フェイスシート（作成例） 記入者 〇〇立〇〇学校（園） 〇〇〇〇 記入年月日 平成〇年〇月〇日

姓	くまもと たろう	性別	男	生年月日	平成〇年〇月〇日	学年等	4年〇組
氏名	熊本 太郎	住所	〇〇市〇〇町〇丁目〇番地 Tel (***-***-****)				
家族構成等	・父親、母親、祖母（父方）、妹（小1） ・母親も勤めているが、下校時には祖母が自宅にいる。 ・本人の障害を理解し、学校や他機関との連携にも積極的である。		本年度までの様子	・保育園では、集団に馴染みにくい等のことで、園の先生と保護者で相談した。 ・就学時健診では、逸脱行動が見られるなど、健診がスムーズに進まなかった。 ・健診後、母親も気になり〇〇療育園で療育を開始。 ・入学前に〇〇療育園の紹介で、一度〇〇クリニックを受診。 ・小学3年生で気になる行動が増え始め、再受診する。 ・本年度から、〇〇校の通級による指導を受けている。			
診断等	・幼少時からアトピー性皮膚炎（〇〇皮膚科） ・小学3年でアスペルガー症候群の診断、LDの傾向もある。（〇〇クリニック）		検査結果等	・標準学力検査（国語 SS: **、算数 SS: **） ・実態調査では対人関係が要支援 ・WISC-III：（言語性 IQ: **、動作性 IQ: **、全 IQ: **）			
現在の児童生徒等の様子	興味・関心	・ウルトラマンや仮面ライダー等のヒーローが大好きである。 ・自転車で出かけることも好きである。		放課後等	・地域の英会話スクールに通う。		
	学習面	・読解力があり、物語文では登場人物の心情を深く読み取り、進んで発表をする。		行動面・運動面	・身体を動かすことが好きで昼休みは外で遊んでいる。 ・係の仕事や手伝いを進んでする。		
	対人関係・健康面	・理解できた約束は、きちんと守る。					
	気になるところ	・文字を書くことが苦手。 ・学年が進むにつれ、漢字を覚えにくくなった。 ・筆算を使った計算に間違いが多い。		整理整頓が苦手	・整理整頓が苦手、机の引き出しにプリント類がたまることも多い。 ・授業中、勝手に発表する。 ・一方的に相手を非難する。		
	遊びたいところ	・板書の要点をノートにまとめるよう指導している。 ・筆算を使うときは補助線を入れるよう指導している。		帰りの会	・帰りの会で毎日に持ち物の整理整頓をする時間を取っている。		
	学級等の様子	・全校児童***名、学級児童**名 ・学級は元気のいい男子が多く、特に診断は受けていないが、衝動性が強い男子が1人在籍している。その男子とのトラブルがよく起きている。		その他	・新興住宅地で、新築中の住宅も多い。 ・地域内に公園も多く、よく自転車で出かけて遊んでいる。		
将来に向けて	児童生徒等の思い	・将来は、ウルトラマン等のヒーロー役を演じたい。 ・文字はあまり書きたくない。		保護者の思い	・漢字や筆算の困難さから学習全般に苦手意識を持たないか不安である。 ・きちんと自立できることが一番の目標である。		
	担任の思い	・よく担任のお手伝いをしてくれるが、他の子どもと更に遊んだりする機会を増やしたい。 ・漢字をはじめ、学習への苦手意識が高まっているので、何とかしたい。					

上記の情報を支援関係者に開示することに同意いたします。

平成〇年〇月〇日

保護者氏名

熊本 一郎

熊印本

個別の教育支援計画」の作成手順

「個別の教育支援計画」は、「特別支援教育フェイスシート」をもとに、保護者を含めたさまざまな支援者が連携を図って作成するもので、対象となる児童生徒等の支援チームが機能するためのものです。

作成後は、「特別支援教育フェイスシート」とともに、毎年必要に応じて修正や追記をします。したがって、毎年ファイルに加えて綴り、保存していくことになります。通常、小学校の入学時に作成した場合、クラス換えを考慮し2年間（3年生・5年生）で更新します。ただし、小学校2年生で新たに計画を作成した場合、最初の更新は1年後の小学校3年生で行います。

また、中学校、高等学校では、それぞれ入学時に作成し、3年間活用します。

1 支援目標

支援内容のより所になるもので、2～3年間を見通してできるだけ具体的な目標を設定します。

2 具体的な支援

どこで（場面）、だれが（関係機関・支援者）、どんな支援（支援内容）を行い、どんな変容や効果等（結果）が見られたかを、次の順にまとめていきます。

○家庭生活

保護者は重要な支援者の一人です。家庭生活全般に関する支援内容等をまとめます。

○余暇・地域生活

下校後や休日における支援者や支援内容等についてまとめます。

○学校生活

学級担任はもちろん、その他、通級指導教室担当者をはじめ、学校で児童生徒等を直接支援する教師や、それぞれの支援内容等についてまとめます。

○医療・保健

専門医等の支援者や支援内容等についてまとめます。

○福祉・労働

児童相談所等の支援者や支援内容等についてまとめます。

3 評価

1年間の支援内容、結果を総合的に評価し、その成果と課題をまとめ、必要に応じて計画を修正します。そのためにも、抽象的な表記ではなく、支援者からの具体的な情報等を参考にまとめていきます。

4 保護者の同意

「個別の教育支援計画」の場合は、「特別支援教育フェイスシート」と同じく、支援関係者に開示することについて、保護者の承諾を得る必要があります。

個別的教育支援計画（作成例）

記入者 ○○立○○学校（園）○○○○ 記入年月日 平成○年○月○日

氏 名	ふりがな	性別	学年等
熊本 太郎	くまもと たろう	男	4年○組

支援目標	・学習への苦手意識から学習不振等の二次的な問題へと移行しないよう、自分に合う学び方を身につけることができる。 ・学校及び地域の人との関わりで困ったとき、相手や周りの人に支援を求めることができる。		

具体的な支援	場面	関係機関・支援者	支援内容	結果
	家庭生活	父・母・祖母	・宿題の量や内容について学校と連携を図る。 ・生活の中での会話を、よく理解できない場合は、「もう一度言ってください」等、聞き返すようモデルを示す。	・宿題で達成感を得られるようになってきた。 ・理解できない場合、自分から聞き返すようになってきた。
	余暇・地域生活	○○英会話スクール ○○○○先生	・指示された内容等、理解できているか、本人に必要に応じて確認する。聞き返して良いことも伝える。 ・スクールの仲間とのコミュニケーションを支援する。	・分からないときは、自分から尋ねるようになってきた。 ・スクールの仲間と遊びの約束をするようになった。
	学校生活	○○小学校担任 ○○○○先生	・通級指導担当者と連携し、学習指導を工夫する。 ・他児とのコミュニケーションのパイプ役となり支援する。	・漢字を覚えられるようになってきた。 ・喧嘩が少なくなってきた。
		○○小学校通級指導教室担当者 ○○○○先生	・WISC-Ⅲの結果を分析し、支援の手立てを担任に提示する。 ・小集団での指導日を設定し、コミュニケーション力を高める内容を工夫する。	・本人のつまずきに応じた支援により、学習意欲も高まってきた。 ・活動を楽しみに参加するようになった。
		○○小学校特別支援教育コーディネーター ○○○○先生	・支援チーム会議を学期に1回開き個別の指導計画の手立てについて検討する。 ・支援者がチームとして機能するよう、連絡調整を密にする。	・担任が一人で悩むことなく、気軽に相談できる雰囲気ができ、本人の支援も充実してきた。
		○○特別支援学校 ○○○○先生	・学期に1回程度の巡回相談を行い、校内支援体制や個別的教育支援計画や個別の指導計画に関して助言する。	・アスペルガー症候群の症状に詳しく、相談での助言が具体的な手立てに役立った。
	医療・保健	○○クリニック ○○○○医師	・保護者を通じて、家庭や学校での状況を聞き、支援のあり方について助言する。	・医療面からの助言を家庭・学校で共有し、支援に生かすことができた。
福祉・労働	○○療育園 ○○○○先生	・療育園の行事等に誘ったり、機会あるごとに本人や保護者の相談に応じる。	・本人にとって、楽しい活動の場であり、クリスマス会等も喜んで参加していた。	

評 価
・学期に1回、支援チーム会議を開くことで、学校や家庭での取組を評価しながら、個別の指導計画を修正することができた。また、保護者から関係機関での太郎さんの情報を伝えてもらい大変参考になった。 ・学習指導を工夫することで、漢字への苦手意識が和らいできた。 ・人との関わりで困ったときのモデルを示すことで、自ら支援を求める様子が見られるようになった。 ・関係の支援者や支援内容は次年度も基本的に継続するが、5年生でクラス替えが予定されており、特に学校生活の項目は、新学期の支援チーム会議で再検討し、計画全体を更新する。

上記の情報を支援関係者に開示することに同意いたします。

平成○年○月○日

保護者氏名

熊本 一郎



「個別の指導計画」の作成手順

「個別の指導計画」は、「特別支援教育フェイスシート」や「個別の教育支援計画」を踏まえて、学校で児童生徒等の状態や発達段階に応じた指導が行えるよう、教職員及び保護者で共通理解を図り、適切な支援をめざすためのものです。保護者との共通理解が十分ではなく、「個別の教育支援計画」の作成が難しい場合は、保護者の気持ちに寄り添いながら、「個別の指導計画」から作成を始め、活用するなどして、日々の指導の実践を地道に保護者へ伝えていく必要があります。

この計画は、毎学期必要に応じて修正や追記をします。したがって、学期ごとに加えてファイルに綴り、保存していくことになります。計画全体は1年間で更新します。

1 項目

I、II、IIIとありますが、「特別支援教育フェイスシート」に合わせて、「学習面」、「行動面・運動面」、「対人関係・健康面」に分ける必要はなく、児童生徒等の状況に応じて、すべて「学習面」を記入したり、I、IIに「学習面」、IIIに「行動面・運動面」を記入したりなど、工夫して活用します。

2 指導目標

学校での教育活動に絞って設定します。年間と学期の目標がありますが、いずれも児童生徒等の立場で、今の状況を考え、現実的で達成可能な目標を設定します。

○年間目標

「特別支援教育フェイスシート」を参考に、1年間を見通し設定します。

○学期目標

年間目標に近づくよう、スモールステップで具体的に評価しやすく達成可能な目標を設定します。指導内容によっては数値目標も設定します。

3 手立て

学期目標の達成に向けて具体的な手立てを考えます。

○学校

「特別支援教育フェイスシート」を参考に、児童生徒等の興味・関心や得意な部分を生かすような工夫を心がけます。

○家庭

学校での手立てに関連して、家庭で保護者に協力してほしい内容をまとめます。保護者との連携がこれからの場合でも、家庭で実践が可能な手立てを学校から提案することで、互いの信頼関係を築く機会にもなります。

＊手立ての追加等：学期目標の期間内に手立ての追加や修正が必要な場合、作成例の②のように追加記入します。

4 結果

手立てに基づいた取組を行った結果、児童生徒等にどんな変容が見られたかをまとめます。学期目標に対して、十分達成（◎）、おおむね達成（○）、もう少し（△）で評価し、それをもとに目標や手立てを修正します。

5 評価

「個別の教育支援計画」の場合と同様に、学期の結果を総合的に評価します。

個別の指導計画

記入者 ○○立 ○○学校(園) ○○○○

記入年月日 平成○年○月○日

氏 名		ふりがな		性別	学年等
熊本 太郎		くまもと たろう		男	4年〇組
年間目標	・自分に合った学び方で漢字を覚えることができる。 ・机の中を整理整頓することができる。 ・友達と遊びたいとき、言葉を使って誘うことができる。				
項目	2学期目標		手立て	結果 (◎・○・△)	
Ⅰ (学習面)	2年生の漢字の習得と新出漢字を5割以上覚えることができる。	学 校	①新出漢字を練習するとき、漢字を部分に分けて提示する。	①「章」を「立つ、日に、十」のように、自分で呟きながら練習するようになった。(12.21:◎)	
		家 庭	①2年生の漢字を学校と同じような方法で3字ずつ練習する。	①2年生の漢字を自分で工夫して覚えるようになった。まだ、覚えられない漢字も残っている。(12.21:○)	
Ⅱ (行動面・運動面)	机の中のプリント類を確実に持ち帰ることができる。	学 校	①クリアホルダーを学級全員に配付し、プリント類を入れて持ち帰るようにする。	①机の中のプリント類がなくなり、引き出しもスムーズにかけられるようになった。(12.21:◎)	
		家 庭	①毎日、クリアホルダーを確認し、プリント類を確実に受け取る。	①自分からクリアホルダーを出すようになり、学校からの連絡もよく伝わるようになった。(12.21:◎)	
Ⅲ (対人関係・健康面)	遊びたいときは、相手に気持ちを言葉で伝えることができる。	学 校	①「鬼ごっこをしよう」等のように、友だちを誘う言葉を話し合う。 ②誘っても断られたときは、「また、遊ぼうね」と言って他の子を誘うか、担任を呼びに来る。(10.21)	①誘っても断れることがあるときの学習が更に必要。(10.20:△) ②休み時間の友だちとのトラブルが少なくなり、担任を呼ぶことも減ってきた。(12.21:○)	
		家 庭	①家族とのコミュニケーションで、分りにくいときは、聞き返すよう促す。 ②状況に応じた言葉のモデルを示し、復唱させる。	①分りにくいときは、相手に尋ねることを学ぶことができた。(10.20:◎) ②要求に応じた言葉が分かり、進んで使うようになってきた。(12.21:○)	
評 価					
漢字の学習や机の中のプリント類の持ち帰りは、おおむね目標が達成できた。来学期も漢字の手立ては継続し、4年生の内容に少しずつでも近づいていきたい。コミュニケーションについては、通級指導教室の担当者とも相談して、更に指導の手立てを工夫していきたい。					

